

2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 01 月 31 日作成)

小委員会名	発注者の役割小委員会	主 査 名：齋 藤 隆 司 就任年月：2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築社会システム委員会	委員長名：野城 智也
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2020 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	多くの建築プロジェクトにおける発注者の意思決定システム及び発注者責任が問題となる中、前小委員会の成果として、発注者評価により理想的な発注者像を示したうえで、発注者を褒める仕組みを構築した。本委員会では、さらに発注者評価手法の普及促進を図ることで、より良き発注者の育成に資することを目的としている。 また、社会問題化する発注者のあり方について、事例調査、ヒアリングに基づき建築プロジェクトにおける発注者の役割を明らかにする。 初年度：発注者を褒める仕組み「発注者評価シート」の普及促進、建築プロジェクト事例（失敗事例を含む）、発注者組織体制、調達方式の選択等事例調査 2年度 建築プロジェクト事例調査に基づく発注者の役割と責任等についてのとりまとめ 3年度 発注者の役割と責任についてのとりまとめ	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 高田光雄（京都美術工芸大学）、古阪秀三（立命館大学）、平野吉信（広島大学）、藤井晴信（東京工業大学）、安藤正雄（千葉大学）、頼本欣昌（国土交通省）、楠山登喜雄（フタバエンジニアリング）、成田一郎（日本ファシリティマネジメント協会）、羽川綾子（レンドリースジャパン）、賀来高志（野村不動産）、片田和範（立命館大学）	
設置 WG (WG 名：目的)	発注・契約 WG 多様化する発注方式において、日本、海外を含めた各国の契約約款、ガイドライン、実プロジェクトにおける建築生産方式を調査し、発注者の役割や責任のありようについて、分析を行う。その結果、発注者の建築プロジェクトに向かう姿勢を評価する仕組みを構築することを目的とする。	
2019 年度予算	75,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：なし

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. これまでの研究成果についての取りまとめを行った。 2. 発注者の手引きになるガイドブックの作成に向けて骨子を検討した。 3. 成果を「発注者の役割と責任」報告書（案）としてとりまとめた。
委員会活動の問題点・課題	1. 建築プロジェクトを取巻く社会環境の大きな変化に伴い、発注者評価軸も改正が必要となってきた。時代とともに変化する項目と不変的な項目の設定が求められており、これへの対応が課題。 2. 建築プロジェクトにおける発注者の責任が増す中で、改めて発注者の役割と責任の明確化が必要。 3. 調達方式が多様化するなかで、発注者の役割は大きくなっているが、調達方式と発注者の役割の関係を明確化する必要性が生じている。